



総力特集

米大統領選2020

次世代のリーダーを決める時が来た

4年に一度の大々的な政治ショー「アメリカ大統領選」。トランプ大統領が再選するのか、はたまた民主党のバイデン候補が政権を奪還するのか、11月3日の本選挙でそれが明らかになる。

二人の勝敗だけでなく、今回の選挙で特に注目を集めているのが、

黒人女性として初めて主要政党の副大統領候補に選ばれた民主党のカマラ・ハリス氏だ。

「女性版オバマ」とも称される彼女は、将来、初の女性大統領になる可能性を秘めた圧倒的な存在感を放っている。

今回の選挙はトランプ氏とバイデン氏の闘いだけでなく、その後の新たなリーダーを決める選挙でもあるのだ。

本特集ではトランプ氏、バイデン氏、そしてハリス氏の演説とともに、

今回の選挙の注目すべきポイントを紹介する。

編集：竹内佑介／訳：編集部

アメリカ大統領選2020

大混乱必至の激戦の勝者は誰に？

まず最初に、今回の大統領選の注目点や各候補の政策、それぞれの候補が大統領に選ばれた場合の日本への影響などについて見ていこう。

解説：冷泉彰彦 れいせい あきひこ

米ニュージャージー州在住。作家・ジャーナリスト。プリンストン日本語学校高等部主任。1959年東京生まれ。東京大学文学部卒業。コロンビア大学大学院修士（日本語教授法）。福武書店（現ベネッセコーポレーション）勤務を経て93年に渡米。『アイビーリーグの入り方』（CCCメディアハウス）、『自動運転「戦場」ルポ』（朝日新書）など著書多数。

今回の大統領選の注目点

米大統領選挙は、両党が全国大会で「トランプ＝ペンス」「バイデン＝ハリス」のコンビを選出し、いよいよ本選がスタートした。異常とも言える左右の分断、人種問題を巡るデモとそのアンチ、そして何よりもコロナ危機が続く中で選挙戦も投票手続きも大きな影響を受けている。前例なき選挙戦の行方を占う上で、必要な観点を整理してみた。

トランプが再選したらどうなる？

現職であるトランプ候補は、1期目の4年間、とにかく再選されるための政策に絞って行動してきた。国境の壁、イスラム教国からの入国禁止、同盟国への負担増要求、中国との通商戦争、そしてコロナ危機下における強引な経済再開、

極端な減税とバラマキなど、そのすべては、自分に賛同するコア支持者の期待に応えるためで、中長期的な国益は度外視されてきた。

再選されて2期目に入った場合、こうした強引な政策のツケが回ってくるだろう。アメリカのコロナ死者は20万人に迫り、国際的なサプライチェーンは崩壊し、巨額の財政赤字が重くのしかかってくる可能性は高い。仮に再選されても、同時に行われる議会選挙では上下両院の過半数を民主党に奪われるかもしれない。そうなるとあらゆる法案を通すのが難しくなるだけでなく、改めて大統領弾劾という動きも起きるかもしれない。そうなれば、アメリカの政治は立ち往生、株価の暴落なども懸念される。

「オバマの8年間」を取り戻す

バイデン氏の基本姿勢は、トランプ大統領の行った政策の否定だ。コロナ危機に関しては改めて感染の封じ込めを実施、移民排斥などは即時中止とするだろう。その上でアメリカをとりあえず「オバマの8年間」に戻すのがバイデンの政策だ。減税から増税へ、医療保険の軽視から重視へ、そして、離脱したパリ協定へ復帰して環境政策の再構築も行うだろうし、トランプが傷つけた西側同盟も再び重視するだろう。

問題は格差問題と中国だ。改めてグローバル経済を再生し、中国との関係も改善するとすると、結局アメリカの国



民主党副大統領候補に選ばれたカマラ・ハリス氏